

抗がん剤プロトコール 届け票

申請日	平成 年 月 日 20. 4. 16		
申請者	所属科: 外科	医師名: 石田秀之	印
抗癌剤プロトコール内容			
略名	5-FU/l-LV 療法 (レボホリナート・フルオロウラシル療法) 持続点滴投与方法、sLV5FU2、simplified bi-monthly レジメン		
適応臓器名	結腸・直腸癌に対するフルオロウラシルの抗腫瘍効果の増強。		
薬剤名	フルオロウラシル注射液 (商品名: 5-FU 注) レボホリナートカルシウム注射剤 (l-LV) (商品名: アイソボリン注)		
注意点	<p>各薬剤の注意点を遵守すること。</p> <p>併用禁忌: TS-1 投与中の患者および中止後 7 日以内の患者。</p> <p>レボホリナート・フルオロウラシル療法はフルオロウラシルの細胞毒性を増強する療法であり、本療法に関連したと考えられる死亡例が報告されている。</p> <p>本療法は重篤な骨髄抑制、激しい下痢などが起こることがあり、その結果、致命的な経過をたどることがある。</p>		
用法・用量・投与スケジュール			
<p>2週を1コースとして繰り返す。</p> <p>1) レボホリナートとして1回 200 mg/m² (体表面積) を2時間かけて点滴静脈内注射する。</p> <p>2) レボホリナートの点滴静脈内注射終了直後にフルオロウラシルとして1回 400 mg/m² (体表面積) を静脈内注射するとともに、</p> <p>3) フルオロウラシルとして 2400~3000 mg/m² (体表面積) を 46 時間かけて持続静脈内注射する。</p>			
Evidence	<p>添付文書。</p> <p>臨床試験 ① 進行・再発大腸癌に対する 5-FU (急速+持続静注)/l-LV 化学療法の耐容性臨床試験 (OGSG 0406)。</p>		
備考	臨床試験 ① は 2004/12/02 当院 IRB で承認されている。		
20. 4. 21			
がん化学療法委員会承認日:			